平成２２年度 第１回高知県産業振興計画フォローアップ委員会の概要

日　時：平成２２年９月２２ 日（水） 13:30～16:30
場　所：高知サンライズホテル「向陽」
出席者：別紙のとおり
事務局：知事、副知事、産業振興推進部長、理事（交通運輸政策担当）、
理事（高知県産業振興センター）、総務部副部長、文化生活部長、商工労働部長、
観光振興部長、農業振興部長、林業振興・環境部長、水産振興部長、土木部副部長、
教育次長、公営企業局次長、各地域産業振興監　ほか

１　開会

２　委員紹介

３　知事あいさつ

皆さまこんにちは。
本日は大変ご多忙の中、高知県産業振興計画フォローアップ委員会にご出席を賜りまして本当にありがとうございます。
平成 22 年度の第１回のフォローアップ委員会ということとなるわけですけれども、この産業振興計画を実行し始めてから１年半の取り組みについて、皆様方にしっかりとご検証を賜り、そして、次に向けたご提言、また、今の執行の改善についてのご提言等々、いろいろと忌憚のないご意見を賜りたいと考えておるところです。
本日のフォローアップ委員会に向けましては、産業振興推進地域本部での議論、また、成長戦略についての専門部会での様々なご議論を経ているわけでございまして、この場をお借りしまして、深くお礼を申し上げたいと思います。
産業振興計画、初年度は「本気で実行」ということを合言葉にし、そして今年は「果敢に挑戦」ということを合言葉にして取り組みを進めておるわけです。幸い、地産外商の機会が増えてきたことでますとか、「土佐・龍馬であい博」が９月９日に 65 万人の目標を達成できたことでありますとか、良い兆しも見えてきていると思っておりますが、逆に言いますと、いろいろな追い風が今吹いている時だからこそできていることも多々あると思っているわけでございます。龍馬ブームなどという、この追い風が止んだ後においても今度は自力で走行できるように、外と本物の関係を築いていく。本物の自力を生産地で築いていく等々、今こそ本物になっていくための力を付けていく重要な時期ではないか思っておるところでございます。そういう重要な時期におけるフォローアップ委員会でございます。
本日は長丁場となりますけれども、貴重なるご意見、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

４　委員長・副委員長選出

＊　委員長に、国立大学法人高知大学副学長の受田浩之氏を選出

＊　副委員長に、高知県商工会議所連合会会頭の西山昌男氏と高知県市長会長（高知市長）の岡﨑誠也氏の２人を選出

５　議事

（１）産業成長戦略の取り組み状況等について

① これまでの取り組みの実績及び施策拡充のポイント

《＊資料１及び資料３により、産業振興推進部長から説明》

※　意見交換の概要は次のとおり

【Ａ委員】

・「まるごと高知」のスタートからの売り上げが大変順調に伸びているという中で、今朝のニュースでは地下１階の酒と２階の飲食のことが出ていたが、その辺はこれから先どのように対応していくのか。

【産業振興推進部長】

・地下１階には高知県のあらゆる酒蔵の酒が 300 種ぐらい揃っており、多い時で１日に 50 万円ぐらいの売り上げがあった。

・２階の飲食の方については、現時点では当初の計画に比べて２倍程度の売り上げである。

・我々の想定より、地下１階の売り上げが多いと考えている。

【Ｂ委員】

・非常にすばらしい成果が出てきており感心した。気になったことだけを少し聞きたい。

・一つは、大体非常にうまくいっているように見える。このまま、例えば、２年３年続いていった時にそれでいいのかというのをもう１回問い返す必要があるのではないか。

・ターゲットが難しいものとか易しいものとかいろいろ混ざっていると思うが、ハイリスク・ハイリターンのものと、ローリスク・ローリターンのものをうまく分散させた形で取り組んで、これについては順調にはいっていないけれど、これがうまくいけばこうなるというふうな形の提示の仕方をしていただいたら、非常に分かりやすくなる。

・もう一つは、せっかく５つの分野でやっているのだから、産業連関の視点を入れた形での何らかの取り組み、あるいは支援をする。例えば、ユズの加工であれば加工のツールなり、道具や機械なりをどうしていくかとかいう形の産業連関の視点での取り組みをサポートするような、一つのシーズとして、あるいは種として何か織り込むということがあったら、将来の高知のために非常に良くなるのではないか。

・同じようなことで言えば、観光とニュービジネスのコンテンツ。アニメを普及させて、そしてそこへ訪問させる、観光客を誘致するというような考え方。つまり、そのニュービジネスのコンテンツ産業と観光とを結びつけるような仕組みとか、５つの分野をつないでいく、横串でつなぐような試

みというものが見えるようになってくればもっと進んでいくのではないか。

【委員長】
・ローリスク・ローリターン、ハイリスク・ハイリターン、こう挙げていくと、将来に対する投資と費用対効果も含めてということになる。

【知事】
・産業振興計画全体の進行状況をチェックしていても、全体としてスケジュールに沿って全く進行していないというのはあんまりない。
・ただ、スケジュールに沿ってうまくいっているからそれで良しということではなくて、Ｂ委員も言われたように、そのターゲットに対して今どういう位置にあるかというふうに本来は把握すべきだろうし、インプットもしくはアウトプットがアウトカムに結びついているかどうかというところを、もっともっと重視して仕事をしていかなければいけない。
・そうした点で、ここをもっと強化したり、こういう取り組みを加えていけばもっともっと効果が出るだろうというものを、主な課題として資料１にも記載している。ここのところの取り組みをもう１段強化していけば、実効性というのが１段２段上がっていくのではないかという取り組みをここに書かせていただいている。
・実際のところＢ委員がおっしゃられたように、ハイリスク・ハイリターンタイプとローリスク・ローリターンタイプがそれぞれの施策の中にも幾つかある。ハイリスク・ハイリターンというのはなく、ミドルリスク・ミドルリターンぐらいか。
・ローリスク・ローリターンみたいな、「土佐・龍馬であい博」みたいに前向きに投資するもの、それから「まるごと高知」などもそうだが、一定投資なくしてリターンなしの発想で前向きに投資していっているものと、底上げを狙って日々の地道な取り組みとして、例えば「学び教えあう産地づくり」という、産地の生産技術の向上の施策を行っている。ある意味そういう形で一度整理してみてもよいかもしれない。整理の仕方を検討させていただきたい。
・産業間の連携の部分については、ご指摘の通り。ただ、今回の計画では、産業間の連携のために「連携テーマ部会」を設けており、意識して取り組んでいる。例えば、「ものづくりの地産地消」の取り組みは、まさに地産外商を行っていくために、ものづくりを県内で作って、地産の部分を強化しようというもの。外商の取り組みと、「ものづくり」の取り組み、第一次産業の取り組みと第二次産業の取り組みを連携してやっていく。確かに１、２、３、４、５と切り分けると、その連携のところが見えにくいことがあるだろうから、そのあたりの意識をあえてするためにも、連携ということを強化したようなマトリックスみたいな形で整理してみるのも必要かもしれない。
・その整理の仕方によって視点がクリアになってくると、ものの考え方がクリアになってくる。取り組みがクリアになるということだろうと思う。そういうことで工夫をさせていただきたい。

【委員長】
・特に、産業連関的な発想でユズという素材が出てきて、それで生産・加工・流通・販売といういわゆるフードチェーンで考えていき、価値創造という面で見た時にどれぐらいの付加価値がオンされているか。そろそろそういうアウトカムの算出のやり方もできるかもしれない。少しずつアウトカムの表現方法を工夫していくということが必要だと、今のやりとりを拝聴していて感じた。

・コンテンツ産業のアニメと観光を結びつけるっていうような点についてはどうか。

【知事】
・現在もコンテンツ産業の育成は行っている。
・アニメを観光にということについては、例えば、東西軸活性化プランの中でも、鳥取の境港みたいに生かすかどうかという意見も出ているが、具体的な話にはなっていない。
・ただ、ご指摘のことでいけば、いかにそのコンテンツ産業を地産外商や観光の情報発信などにつなげていくかということは、非常に重要な視点だと思う。
・観光部会からも、コンテンツ産業育成の中で観光を意識することは非常に重要だということを言われているので、よく意識したい。

【C委員】
・次のステージに向かう「施策拡充のポイント」の「産学官連携」というのは非常に広い世界であり、すべての分野にかかわるというものだと思う。これからここに肉付けをして施策をつくっていくと思うが、今、何かある程度強く関連づけて考えているのか。

【知事】
・３つある、一つ目は、「施策拡充のポイント」の一つである新エネルギー。これは大いに期待ができる。
・２つ目は人材育成。現在、人材育成として、例えば、「目指せ！弥太郎　商人塾」などもやっているが、大学の先生方からより本格的な形で教えていただくような人材育成のプログラムを作っていただくことについても期待している。
・そして、三つ目がいわゆる先端技術の商品化。これができればと考えている。いわゆる先端的科学技術を何らかの形でビジネスに変えていくようなことで、なかなか難しいかもしれないが、シーズもしくはニーズがあればということを大いに期待している。
・そんなに簡単な話ではないのかもしれないけれども、小さいものの積み上げの場合もあるのかもしれないが、大当たりしている県もある。そういうことも考えられるのではないのかと思っている。

【産業振興推進部長】
・今、各大学とも協議をさせていただいて、いろいろなシーズ、その素材についてお聞きしている。
・それとともに、民間産業界からのニーズ、それから産業成長戦略を進めていくうえでの「学」に求めるニーズとマッチングをさせていく。
・新エネルギービジョンと産学官連携のアクションプランの中では、だぶって出てくるというようなことも想定している。

【委員長】
・その次のステージというふうに表現されているが、この産業振興計画は、短期的には３年間ということで、21 年度、22 年度、23 年度ということで実行している段階に対して、ここで「次のステージ」が出てくると、ちょっと時間軸が違うのかなというふうに感じる。
・それで、この新エネルギービジョンであるとか、特に先ほど知事がおっしゃられた先端技術の商品

化、これは先ほどＢ委員からもご質問があったハイリスク・ハイリターンに相当するのかもしれないが、こういう部分はかなり気長にというか、長いスパンでやらないと、育つものも育たない。そこの時間軸的なところはどういうふうに考えているのか。

【知事】

・産業振興計画は当面の目標を 23 年度までとしているが、私の任期が 23 年の 12 月までということにも大きく絡んでいるということは、計画策定時にも説明させていただいた。ただ、産業の振興を図っていこうとする取り組みというのは、不断の取り組みであって、今後ずっと高知県においては続けていかなければならないものであり、先々までこの産業振興計画というものを一つのベースとして産業振興を図っていくことが大事ではないか。今後においてもそれを貫かせていただきたい。

・産業振興計画は PDCA サイクルに従って、毎年度改定をしていく。23 年度に向けもう１回改定をしバージョン３になる段階では、この「産学官連携の強化」と「新エネルギービジョン」を織り込んだ形で改定をしていきたい。

・産学官連携の取り組みについては、長期的な取り組みもあるのではないかということかと思うが、産業振興計画は 23 年度で終わりと決めつける必要はないので、産業振興計画の中に 24、25、26 年度もターゲットにしたような長いプロジェクトが入っていても構わない。ただ、その時に特に大事なことは、23 年度において、長い取り組みでも千里の道も一歩からで、短期間で何をするかというプログラムがはっきりしていないといけないので、６年間のプロジェクトをドンと入れたとしても、最初の１年については特に５Ｗ１Ｈをクリアにし、その後、だんだんとぼやけてくる。例えば、そういうような形で織り込んでいけば、十分に整合は取れるのではないのかと思っている。

【Ｄ委員】

・それぞれ着実に進んでいるという印象を持ったが、その中で重要な課題だなと思ったことについて幾つかお話ししたい。

・まず、農業のところの課題で「顔が見える流通・販売の強化」について。東京にいた人間からすると、食の安全については関心が非常に高まっているので、流通がしっかり見えるというのは非常に大事なことだと思う。そういう意味で、これまでのいろいろな流通経路等の関係があるかもしれないが、ある意味、担い手づくりということにもつながると思うので、しっかりと取り組んでいく必要があるのではないか。

・もう一つは、商工業の「企業立地」「建設業の新分野への進出」について。今、円高が進んでいる中で、企業は、海外にどうしても目が向いているところが出てくるかと思う。そうした中で、地産地消とか攻めるところも重要だけれども、その一方で地盤沈下が進んでしまってはいけないので、企業立地、それから、建設業等の構造転換を着実に進めるという、地盤が崩れないための取り組みとも、引き続き進めていくことが重要ではないか。

・先ほど来、産業連関的な取り組みとか、次のステージへ向けてという話もあるけれども、一つは農業にしろ林業にしろ、どういうふうにそれぞれ需要度を作っていくか、生産なり流通を進めていくかという取り組みをして、それがそれぞれ仮にうまくいったとすれば、さらにそれをいかに効率的に生産性を高めていくかということを次のステップとしては考えていく。それは生産なり、流通なりをさらに分業して進めていくということによって生産性を高めていくということができれば理想的なのではないか。

・まだまだそこまではいっていないということだと思うので、まずはそれぞれの産業の中で需要をいかに掘り起こして、供給体制を進めていくかという今の形で進めていくことで良いのではないかと思うが、次のステップを考えるうえでの一つの視点にはそんなことも考えられるのではないか。

【知事】

・最終的には、産業分野ごとの分業体制ということは、非常に大きなご指摘で、先ほどＢ委員からのご指摘とも関係すると思う。よりしっかりした整理をすることでそういうところが見えてくるのだろうと思うので、まずはＢ委員のご指摘を受けた整理などをさせていただく中で、今、Ｄ委員がおっしゃられた点についても考えを深めたい。

・足下の地盤沈下を防ぐというのは、非常に重要なこと。建設業の転換ということについても、今後とも進めていかなければならない。最近の説明会では、包括協定を結ばせていただいている四国銀行にも同席をしていただくこともあって、非常に熱気ある形で参加してくださっている。ぜひとも、もっと一生懸命やっていきたい。

・企業立地の促進も重要であるし、そして、県外転出を防ぐという点も同じ。県外との競争も意識をした施策体系というのをもう一段組み上げていく必要があるのではないかという検討を行っている。来年度の当初予算で、そのあたりについて積極的な形でお示しをしたい。産業振興計画の中に入ることにもなるわけなので、ご相談をさせていただきたい。今日の段階では、まだ具体像をお示しできないが、その点を一歩進めさせていただきたい。

・流通についてのご指摘はごもっとも。大山委員のご支援も賜りながら、一体となっての取り組みを進めさせていただきたい。

【委員長】

・産業成長戦略は各部会で時間をかけてご議論いただいているので、部会長の皆様から、先ほどの幾つかのご質問に対してのご意見や補足説明など、一言ずつコメントをいただきたい。

※農業、林業、水産業、商工業、観光部会の各部会長から部会報告（報告内容省略）

【Ｅ委員】

・上海シティショップの常設売り場を四国４県合同で行っているということであったが、高知県だけでできるものは単独でやっていけば良いけれども、四国４県、あるいは四国４県に限らず他県と連携をしてやった方が効果的、効率的だというようなものがあるのであれば、積極的に連携していただきたい。

・「産学官連携」では、産業技術総合研究所と四国の６大学が、今年で言えば「食と健康」をテーマとして連携協定を締結して、連携してやっていこうというような話をしている。そうした観点で、四国の大学間の連携から生まれたようないろいろなシーズとかいうものを、産業界の方でうまく取り込めるような形で、四国経済産業局の方でも支援ツールというものをいろいろ考え、整えていきたいと考えている。

【産業振興推進部長】
・上海シティショップの件については、上海という場所では四国であっても、まだ知名度がないかもしれない。その中で高知県単独でやってもなかなか難しい面もあるので、当面、四国で連携してやってきたものだが、いろいろな食材が使われるところなので、一定の効果は出てきた。次年度の上海戦略については、これからの取り組み次第では四国４県の連携や他県との連携、また単独でやることについても、臨機応変に考えていきたい。
・「産学官の連携」については、おっしゃられますように、食と健康であるとかいろいろなパターンがあると思う。一度ご相談に行かせていただいていろいろな面でご指導も賜りたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

【副委員長】
・公共施設でも、できるだけ木造使用を進めながら、木材の消費を増やさなければならないと考えている。新聞でも報道されたように、３階までの公共施設を建築する場合、原則木造に規制されると言われているので、コストの問題もあるけれども、またいろいろな機会を捉えながら、公共施設の改築の時に考えていかなければならないと思う。
・川下のご専門の方から、木材の乾燥が不十分だと、建てた後、木材が割れるので、乾燥というのは品質に関して非常に重要だということ聞いた。県内に大型の乾燥工場はないらしいが、公共施設での使用となると使う木材のボリュームも大きくなるが、対応できるのか。

【林業振興・環境部長】
・お話があったように、乾燥というのは製品として売っていくうえで不可欠なもの。大体は製材工場がそれぞれ乾燥室を持っているが、現在、県内の大型の乾燥施設としては、共同のものが仁井田にあるのが唯一。県としても共同の乾燥施設の整備を進めていこうということでやっている。ただ、現実的には投資が必要なので、今の製材工場では、なかなかおいそれとやっていただけないというような状況があるが、今後、共同乾燥施設というものが必要だと考えているので、促進していきたい。

（１）産業成長戦略の取り組み状況等について
　② 「ポスト龍馬博」の取り組みの具体化
《＊資料２により、観光振興部長より説明》

　※　意見交換の概要は次のとおり

【Ｆ委員】
・来年は、今年の反動というだけでなく、九州新幹線が開通するので、四国高知への観光客のメインである関西・中国の方がどっとそちらへ流れるという傾向はもう完全に想像される。
・だから関西・中国地方の旅行業界へは綿密な旅行業界に対する緻密なインセンティブ等を使った働きかけをしていく、業界の方をこっちに釣ってくるという動き、また、関東の方は九州まで行くと

いうことにはならないと思うから、関東へは、高知に向いてさらなるうねりをつくるというような動きをぜひ派手にできたらというふうに思う。

（１）地域アクションプランの取り組み状況等について
《＊資料３により、産業振興推進部長より説明》

※　意見交換の概要は次のとおり

【Ｄ委員】
・漠然とした質問になるが、こういう地域の活性化の取り組みというのは、日本全国いろいろな都道府県、市町村でやられている取り組みだと思うけれども、こうした中で本県の総体的な位置づけといったらなかなか難しいと思うが、例えば取り組みの数とか、強いところ、弱いところとか、そういうところについては、現時点でどのように見ているのか。

【知事】
・高知県産業振興計画のように総力戦でやっているところは、他にはまずないのではないか。我々は、他県のいろいろな取り組みも徹底して研究しているが、段々と本県の計画に似たような計画つくり始めたところもあるように思うが、本県の計画は、まず産地から販路開拓まで全てをカバーするということ、５Ｗ１Ｈを非常に明確にしているという２つが大きな特徴ではないか。
・地域アクションプランについて、一言でいうと、地域において、本当に地域の経済自体を底上げするに足るだけの一定のいろいろな事業を実施しようとしているということ。１村１品運動というのがあったけれど、１品では振興は図れない。だから、農業の関係もあり、水産業の関係もあり、林業の関係もあり、そしてまたそれに派生して加工とか、それを観光に生かしたりとか、いろいろなことをやって初めてじわじわと経済というのは浮揚していくということではないか。
・これは資料３でも見ていただいたとおり、それぞれのブロックの中で、ほぼいろいろな分野に関連しているのを見ていただけたと思うけれども、そこのところのカバレッジ（カバーする範囲）の大きさというのは、実際の地域の経済の浮揚というものを意図したものであるということを象徴していると思っている。その上で、このアクションプランは先ほど申し上げた産地のつくり込みから販路の開拓まで、県全体を横串で貫いて実証する成長戦略と同時に活用することができる。
・先ほどご説明した、「どク礼もん」では、カツオをいろいろ加工してラー油を作った。これは地元のカツオ資源を生かしての取り組みだけれど、それについて、例えば、食品衛生表示の支援や、工業技術センターにおいて食品加工の技術支援などから始まり、最終的にはアンテナショップに商品を置いて販路開拓支援をしている。だから、こういうような総合的な支援策というのも活用できること自体が他とは違うのではないか。
・どこまでやるのかというところが非常にポイントだと思うが、正直なところ高知県のいろいろな経済データを見ると、十数年にわたる疲弊というのが続いてきている中で、民のことは民でどうぞということでは済まないところが、産業にしても地域にしてもあると思っている。私は官民協働でということを、従来から申し上げてきたが、当面の間においては官も一定手を出し、力を入れて産業振興、経済の復興ということをしていかなければならないという考えである。

【副委員長】
・各市町村とも、観光資源をブラッシュアップしたいところがあるかと思う。高知市であれば、例えば武市半平太の墓所周りとか。県の９月補正予算で、その例えばプラッシュアップ用の新しい補助制度ができるのか。

【観光振興部長】
・今回、メイン会場、それから３つのサテライト会場を地域の拠点として、そこからさらに地域へ誘うという取り組みが一定の効果を挙げている。
・来年のポスト龍馬博に向けて、さらにきめ細かく取り組みたいということで、観光拠点の施設整備にかかる補助金の補正予算案を、９月議会で審議していただく。詳細はまた改めてお知らせしたい。

【委員長】
・参考資料４に７ブロックのアクションプランに関して詳細なデータがあり。１Ｐに「ランクアップの状況」が数字で挙がっている。今は、第２四半期なので今年度半分が終わったところで、ＡＢＣの３分類の熟度が上がった、例えば、ＣからＢで安芸地域は１つランクアップしたというような形で書いているかと思うが、ここの評価はどうか。
・昨年度と比較して、この半年経った時に、地域アクションプランは、ランクアップを非常にしているということなのか、現状どうなのか。それから今後、第３四半期、第４四半期でどういうふうに推移していく見通しなのか。

【産業振興推進部長】
・ＣからＢが何件、ＢからＡが何件という取りまとめをしているが、今、具体的な数字は持ち合わせていない。ただ、初年度１年経過して、節目節目で見直していく段階で、ＣからＢ、ＣからＡ、ＢからＡという形でランクアップしているものがほとんどになっている。
・一部、ランクダウンもあるが、ランクアップの比率は８：２とか９：１といった状況。また次の機会にお示ししたい。

【委員長】
・私が気になったのは、いつからランクアップしたかという、その基準をどこにするかによってこの数字の見え方は変わってくる。つまり、平成 21 年度にＡＢＣでスタートしていて、そのＣからＢになりＡになるというステップアップしていくものは当然あるわけで、22 年度に例えばＢに上がったものがＡになるとかということになると、積み上げではないという表現の仕方になってしまうのではないか。
・起点をどこかに決めて、ＣがＢになり、ＢがＡになっているものがきちんとここに盛り込まれるようにしておかないと、ある年度で瞬間的な切り分けてしまった時には効果が見えにくくなるのではないか。

【Ｃ委員】
・アクションプランの代表的なものをご紹介いただいて、それぞれ成果が出ているのはよく分かる。

参考資料４を見ても、進んでいるものについては、雇用が何人生まれたとか、数字が入っているところが多い。これは非常に大事なことで、各アクションプランを見れば、別に数字が入っていることが絶対条件だと思わないが、入ってないものもある。でも、数字が入って成果が出てくるということは、それは他のプランには間違いなく参考になるはずだから、それを数字が全てではないといいながらも、可視化するという意味では非常に分かりやすいものでもあるので、ぜひ進んでいるもの、後から追いかけるものが出るのは構わないので、進んでいるものは進んだ形をもっと分かりやすく見せる努力をしてほしい。この目標を書き換えてもいいと思う。

・可視化することによって、アウトカムのイメージを共有するということに、間違いなくつながるので、これだけ成果が１年半の間に出てきているので、それをもっともっとみんなで共有して、参考になるものはどんどん各プランが取り入れていくという流れを作ってほしい。

【産業振興推進部長】

・Ｃ委員のおっしゃる通りで、できるだけ我々の方も数字を掴んでお示しをしたいので、各事業者とかにお願いをしているところであり、そうしたことに努めていきたい。

・先ほどのランクアップの状況について、21 年度から 22 年度にかけて説明をさせていただくと、ＢからＡへのランクアップが 16 件、ＣからＡへのランクアップが 11 件、ＣからＢへのランクアップが 13 件で、合計 40 件ということになる。ＡからＢにランクダウンが３件である。先ほど受田委員長がおっしゃられたような形で、時期を明確にして、どのような動きがあったのかということを、整理していきたい。

【委員長】

・成果がこうやってたくさん出始めたので、あとは表現方法も工夫が必要だということと同時にかなりいろいろな方法があり得る。そこに徐々に力点を置いていただきたい。

【副委員長】

・来年度のポスト龍馬博について、交通の関係としてレンタサイクルがある。旅館やホテルに一定の数のレンタサイクルがあり、宿泊しているホテルから乗って出てホテルへ返すというものだが、聞いたところによると、チェックアウトすると借りられないらしい。県外のお客さんが別のホテルや駅などに乗り捨てできるようにするとか、もう少し工夫するともっと利用が多くなるのではないか。オランダのレンタサイクルは、カード式で簡単に利用できる方式で、有料で市民へも貸しており、大変便利だ。

【副委員長】

・市内の各ホテルに置いているレンタサイクルは、高知市の観光の事業の関係で購入し、ホテルに対し募集をかけ、希望台数を置いている。

・レンタサイクルは、提携しているホテルであれば、どこへ返してもいいし、チェックアウト後の利用も可能。

【Ｇ委員】

・随分と脚光を浴びている「まるごと高知」の目的は外商活動の拠点ということだが、物販が年商３

億円、飲食が１億円ということなので、この外商活動の拠点ということになると、外商課４名の方の活動はどうなのかということになる。売上は店の売上、つまりリテール（小売り）の売上であって、ホールセール（卸売り）の外商活動とは少し違うのではないか。考えていることと売上とのミスマッチが起きているような気がする。

・アンテナショップの売上だけが注目を浴びているが、年商の中で、店内売上がいくらで、外商の仲介・斡旋、それに伴う売上がどうなのか。そのサービスがどうなのか。

【知事】

・アンテナショップの売上が平均でどうかとかいうのは、開店１カ月なのでマスコミも非常に注目しいただいているから目立っているが、我々はいつも商談会とか展示会とか、高知県産品フェアとかの件数を挙げて説明している。

・これは、要するに地産外商公社を設立後、外商活動を始めており、アンテナショップを活用しているものもあるが、それ以外の例えば大阪とか、名古屋でやっているものも含めてオールジャパンでどうですかということ。例えば、平成 20 年度 13 件、平成 21 年度 72 件、平成 22 年９月時点で確定しているものが 67 件あり、今後もっと数が増えるだろう。平成 21 年度の 72 件の商談会等々で商談が成立したものが今把握している範囲で 178 件。そういう形でお示しをさせていただいている。

・ただ、金額がいくらかといった時に、そこで商談が成立した業者がうちはこれでいくら売上げたと、どこまで開示してくれるかという問題もあるので、そこのレポーティングシステムというのは、我々ももっと気を付けないといけない。今こういう形で、例えば、外商活動全体としての成果ということについては、お示しをしているところ。これが非常に一番重要なところだろうと思っている。

・まるごと高知に４名の外商担当の職員を置いているが、地産外商公社は全体として、大阪事務所、名古屋事務所とも協力して外商活動を行っていく。東京においては、「まるごと高知」を拠点にして売込みをしていく。

・「まるごと高知」において、外商活動をするための目標値というのもお示しをしている。訪問が年間 200 件、展示商談会、まるごと高知で実施するのが年間 36 回、月に３回ペースぐらいで「まるごと高知」のスペースを利用して展示商談会を実施しようということを考えていて、その金額が外商活動で 11 億円強という形で我々はお示しをして、トータルでアンテナショップ全体の経済効果が 20 何億円ということでお示ししているところ。

・ご指摘の通り、物販の金額やレストランでの売上高というのが非常に目だっているけれども、実際のところは外商活動でどれだけ成約件数を稼ぎ出し、金額を稼いでいくかということが非常に重要だと思っている。

・そういう意味では、「まるごと高知」を使った外商の展示・商談会は、まだ２件。１件は日本酒、１件は木材のセミナー。「まるごと高知」を使っての外商活動というのは、店をオープンして以後、今ぐらいから本格化し始めるという段階。いわゆる第２段目のエンジンに火が点くのはこれからという状況であろうと思っている。ただし、外商公社全体では、「まるごと高知」を使わないで、外商公社としての仕事をずっと続けてきているから、それが例えば 67 件の展示・商談会とか、県産品フェアを作り出してきたことであり、去年でいえば 178 件の成約を作り出してきたことなので、そういうふうにご理解いただきたい。

【委員長】

・地産外商推進協議会において、「まるごと高知」の物販、飲食以外の先ほどの仲介・斡旋、テストマーケティング等に関しても詳細な報告をいただいている。今日は時間的に限られているということもあり、また、８月 21 日にオープンしたてであるというようなこともあって、そのことに重点が置かれたという状況にあるということだと思う。

・今後、見せ方というか、アウトカムの出し方を、このフォローアップ委員会の場においても、じっくり考えながらご紹介いただければと思う。成果がたくさんになってくると難しいところがあるけれど、よろしくお願いしたい。

【知事】

・見せ方というか、分析の仕方については、最初にＢ委員が言われたとおりだと思う。どう分析するかということが、その後のパフォーマンスを変えると思うので、よくよく意を用いたい。

６　閉会

【知事】

皆様、第１回のフォローアップ委員会、大変長時間にわたりご審議を賜りまして、本当にありがとうございました。今日いただいたご意見を踏まえて、今後の対応を進めさせていただきたいと思っております。回を追うごとにご審議をいただく内容とボリュームが増してきておるところでございまして、そういう意味におきまして、このフォローアップ委員会の時だけはなく、間断なく行っていただくことが非常に重要でもあろうと考えておるところでございます。図々しいお願いで恐縮でございますが、もし日々お気づきの点等ございましたら、随時私どもに対してご意見をお寄せいただきたいと思っております。

本当に実効性あるものにしたいと思っておりますし、また、バージョンアップについてもより実効性のあるものを追求していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様、本当にどうもありがとうございました。